

## CSR 報告書2018を読んで



### 阪 智香 (さか ちか)

関西学院大学学長補佐・商学部教授・商学博士  
現在、日本学術会議連携会員、大阪府環境審議会委員、日本経営分析学会理事、日本ディスクロージャー研究学会理事、日本社会関連会計学会理事等。著書に『環境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会 学会賞受賞。

### 全 体

今年の報告書では、すべての活動について、CSRの5つの重点課題分野と、国連のSDGs(持続可能な開発目標)との関連付けが示されています。このことで、ダイジェスト版のCSR報告書は、読みやすさがさらに改善されました。また、SDGsの17目標のうち12目標がカバーされており、デンソーテンの活動が包括的に実施されていることは高く評価できます。

### 重点課題分野別の取り組み

「消費者課題」では、自動車産業の新しい品質マネジメント規格「IATF16949」を業界で先駆けて取得し、また、最近の他社のコンプライアンス違反を意識した品質意識の向上・人材育成の取り組みが行われるなど、高い水準の取り組みがなされています。

「環境」は、グリーンサイト(生産)、グリーン調達・グリーン物流、グリーンプロダクツ、マネジメントシステム、環境リスク対応の全領域にわたりバランス良く丁寧な活動と、詳細版では18頁に及ぶ詳細な情報開示がなされています。業界初でISO14001:2015のグローバル統合認証を取得したことからも高い組織力・対応力が伺えます。

「人権・労働慣行」では、介護・仕事の両立支援の強化や障がい者雇用の新基準達成などの他、2018年度を健康経営元年と位置づけ、健康宣言が盛り込まれるなど、SDGsに沿った労働環境向上の取り組みも着実に具体化されています。

「公正な事業慣行」では「紛争鉱物方針」も明らかにされました。

この他に、情報セキュリティ強化の体制づくり、多様な地域貢献活動などの情報が盛り込まれ、読み応えのある報告書となっています。

### エコビジョンと今後に向けて

今年の報告書では、従来の地球環境憲章と環境中長期 VISION を統合し、新しく制定された「エコビジョン」が目を引きます。その「コミット2025」は極めて意欲的な内容で、パリ協定や2050年ゼロエミッションに向けて、車のCO<sub>2</sub>半減、工場のエネルギーハーフ、排出物・廃棄物・水使用量の半減などが掲げられています。既に「環境取り組みプラン」も見直されていますが、限界削減費用が高いわが国において、今後の取り組みはこれまでにないレベルにまで高める必要があるでしょう。

そのために1つは、グローバル・バリューチェーンをより意識した活動が必要です。環境負荷の多くはサプライチェーンの上流で生じています。デンソーテンでは、サプライチェーンの観点から、既に温室効果ガス排出量算出、4次までのサプライチェーン情報整備(SCR-Keeper)などがなされています。この貴重な情報基盤を活かし、企業の壁を越えて協力することで、環境負荷削減と資源生産性の双方を向上させる新たなブレイクスルーが見いだせるのではと思います。

2つめは、環境・CSRと企業価値のリンクの見える化です。既に導入されている「環境経営比較評価」は、「運用改善と企業価値」と「マネジメントシステム」を評価する優れた仕組みですが、CSR報告書の諸活動と企業価値が具体的にどのようにリンクしているかに関心のあるところです。

デンソーテンの今年の報告書は、SDGsやパリ協定といった世界の動きをいち早く自社のエコビジョンや活動に取り入れ、コミットする強い覚悟と責任感が伝わるものです。今後に向けてステークホルダーの期待も高まります。

## ご意見をいただいて



株式会社デンソーテン  
取締役執行役員常務

森下 拓

阪先生にご意見をいただくのは3年目になります。今回も当社のCSR活動について、重点課題分野別に詳細に評価していただき、また貴重なご意見を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は昨年、世界的なCSRの重要性の高まりを踏まえ、当社の活動をより社会の期待や要請に沿ったものにしていくための第一歩として、CSR活動とSDGsとの関連づけを行いました。これにより、SDGsで示された課題の中には、当社のめざす方向との一致が

多くあることを明確にすることができたと考えています。

今後は、SDGsの各目標について当社が事業を通じてどのように貢献できるか、重点的に取り組む課題を明確にするとともに、ご指摘いただいた「CSR活動と企業価値とのリンクの見える化」に向け、管理指標の設定などにも引き続き取り組んでまいります。

また、今回高く評価していただいたエコビジョンは、当社にとってもチャレンジングな目標と認識していますが、その達成に向けて、サプライチェーン全体での活動を推進してまいります。

私たちは、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて、環境変化や社会の期待を敏感に捉え、「誠」を大切にしながら事業活動を推進することで、社会的課題の解決に貢献し、信頼される企業をめざしてまいります。